

令和 6 年度

第 1 回山梨県立美術館協議会資料

山梨県立美術館

美術館活動目標

山梨県総合計画において、県立美術館などの文化施設では、特色を十分に生かした企画展などの開催や教育普及事業の実施、展観環境及び資料保全環境の充実を図るなど、幼少期から本物の芸術・文化に触れる機会を提供することとしており、その実現のため、次のとおり活動目標を掲げる。

【展示／見る】
幅広いジャンルでの質の高い「特別展」とともに、西洋美術、山梨ゆかりの美術、日本の近現代美術などの「コレクション（常設）展」の一層の充実を図る。

【教育普及／学ぶ】
生涯学習の進展や教育課程における総合学習の充実化にともない、より多様な学習機会の提供を行う。

【付加価値・魅力／憩う】
本来の美術館機能に加え、さまざまな付加価値を充実させ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供を行い、文化観光の拠点をめざす。

令和5年度の活動状況

【展示/見る】

【コレクション展】

春季
「共に、在る。ー自然の営み・人の暮らしー」「新収蔵品・修復作品」
夏季
「おかげさまで45周年　みなさまのご支援の賜です　～寄託作品を一堂に～」他



古屋正壽《樹下遊牧》
1928年　紙本着色



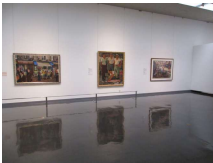
会場風景

秋季
「芸術家たちの旅」他



深沢幸雄《記録（赤）》
1964年　銅版画

冬季
「コレクションに見る『集まる』」他



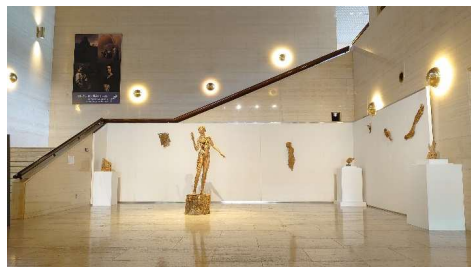
会場風景

【特別展】

※別紙「R5・6年度 特別展概要」参照

【キュレーターズアイ】

「岡本直浩展」4月25日(火)～6月25日(日)



山梨市出身で、おもに人物の精緻な木彫作品をつくり続けている岡本直浩を紹介した。

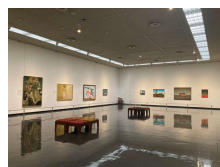
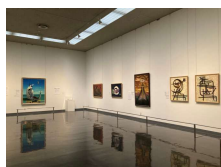


3

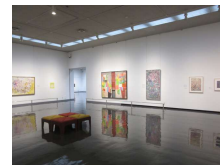
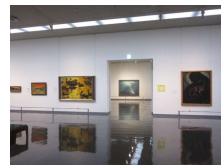
令和6年度の活動状況、および予定

【コレクション展】

春季 「シュルレアリスム宣言100周年
シュルレアリスムと山梨ゆかりのコレクション」 他



夏季 「みつけて かんじて」他



4

【特別展】

※別紙「R5・6年度 特別展概要」参照

【コレクション企画展】

「没後100年 富岡鉄斎 鉄斎と文人書画の優品」

会期: 令和6年7月20日(土)～8月25日(日)



【キュレーターズ・アイ】

「砺波周平展」(予定)

会期: 令和7年1月2日(木)～3月2日(日)

ハケ岳に暮らし、家族の日常や周囲の自然といった、身の回りの世界を撮りつづけている写真家・砺波周平を紹介する。

5

【付加価値・魅力/憩う】

[文化庁支援事業]

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

・文化資源デジタル化・コンテンツ開発事業



ミレー作品紹介
4Kプロジェクター



バルビゾン村紹介
タブレット

・作品鑑賞プログラム魅力増進事業



対話型鑑賞の研修
作品を前にしての実践



シルバーのための
美術鑑賞
ワークショップ
(認知症ケア)

6

【教育普及/学ぶ】

～学校教育との連携～ スクールプログラム

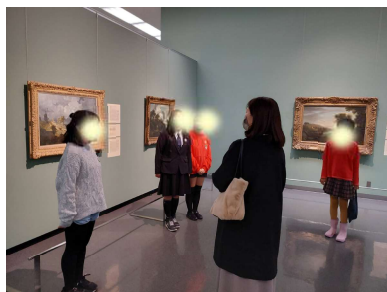
- ・県内外の学校、教育・福祉施設の団体来館者に対して、要望、対象に合わせた「オリエンテーション」「対話型鑑賞」「創作体験」などを行ってきた。
- ・遠足や校外学習での児童生徒の来館は昨年度より活気が戻ってきた。
- ・屋外の活動として、彫刻探検や彫刻のスケッチも実施している。



7

～学校教育との連携～ スクールプログラム

- ・山梨県立美術館から一番近い新田小学校とは、年間を通じて全学年の美術館訪問を計画している。6年生については2月頃、当館でのギャラリートークを予定しており、今年度は4月から準備を進めている。
- ・WEB会議システムで学校と美術館をつなぐ方法も学校との連携の一つの選択肢となった。今後、学校のインターネット環境が整えばニーズが高まり、美術館から離れた地域の児童生徒と美術館の展示室をつないで体験的な学習ができようになるとと思われる。



新田小6年 ギャラリートーク



新田小2年出前授業

8

～学校教育との連携～

職場体験・インターンシップ

- ・キャリア教育の一環として、様々な事業所で職業について体験的に学ぶもの。
- ・当美術館では、令和5年度は7月5日・6日に4名、7月28日・29日に8名、8月1日・2日に6名を受け入れた。令和6年度は8月1日～2日、8月2日～3日の2部に分け、合計14名の中学生・高校生が体験した。

「教師のための鑑賞研究会」

- ・学校の教職員のために、特別展ごとに「鑑賞研究会」を実施。
- ・学校教育と美術館教育との連携。
- ・昨年度春季まではWebでの内容も組み合わせた。



教師のための 鑑賞研究会

教員研修

- ・山梨県総合教員センターとの共同開催により学校の先生方の研修も実施。当館での実施と総合教育センターにて初任者研修を行った。
- ・幼児教育研修、初任者研修の講義を行った。

～キッズ・プログラム～

造形広場／創作教室

〔造形広場〕

- ・元・山梨学院短期大学保育科教授 伊藤美輝先生に講師をお願いし、毎月1回実施
- ・幼児からどなたでも参加できるプログラム
- ・参加人数は5年度の9月までは50名までとしていたが、10月から人数制限をしていない。毎月100名を超える参加がある。

〔創作教室〕

- ・年に数回、季節のイベントなどに合わせて実施している。



特別展関連ワークショップ

・特別展をより楽しく学ぶためのプログラムとして、どなたでも参加できる内容で実施

・令和6年度は、ベルエポック作品の技法にちなみ「リトグラフってなに？」(5月11日)、山梨モダンでは「山梨の和紙でレトロモダン柄のハガキを作ろう！」(10月13日)を実施。

・今後は「超絶技巧」関連のワークショップを実施予定



11

美術体験・実技講座

・本年度は版画(リトグラフ、シルクスクリーン)、油彩画、日本画

・「オープンアトリエ」として、絵画や版画を制作する場所を提供



わかば講座（旧障がい者のためのワークショップ）

・障がいのある方を対象に行うワークショップを実施
・当館の教育普及の大きな柱として、あらゆる方々が、美術に親しんでもらえるような活動を行っている。

12

美術体験・実技講座予定			
講座名	講師	講師指導日	
はじめてのリトグラフ	作家：古屋真美 氏	5月25日（土）	
リトグラフ	作家：遠藤竜太 氏	6月15日（土）、6月16日（日）、29日（土）、30日（日）	
はじめてのシルクスクリーン	作家：天野純治氏	8月25日（日）	
シルクスクリーン	作家：天野純治 氏	9月8日（日）、15日（日）、22日(日/祝)、23日(月/振休)	
わかば講座	作家：齊藤翔 氏	10月9日（水）「てとてとてとてとてとてとてと」 絵の具や粘土を使用して、手のみで様々な表現を楽しむ、	
油彩画	作家：飯野信二氏	10月19日（土）、26日（土）、11月9日（土）、16日（土）	
日本画	作家：目黒祥元氏	12月1日（日）、8日(日)、14日(土)、15日(日)	
オープンアトリエ		①版画 7月2日（火）～14日（日） ②版画 9月25日（火）～10月8日（火） ③絵画 2月11日（火）～26日（水）	

13

みんなで作る美術館（みなび）

・大人も子どもも、障がいのある人もない人も、アーティストも一般の人
も誰もが自由に参加でき、ワークショップにて楽しみながら作品をつくり
上げ、年度末の展覧会で作品を発表する事業

・令和5年度から「やまなしをつくろう」をテーマに開催しており、令和
6年度はその2年目として、山梨の伝統的な手仕事や素材に目を向け多彩な
作品を制作している。

・令和7年1月22日（水）～2月2日（日）の会期で開催する「みなび展」
で作品を展示する。



8月8日
「山梨の土でつくった土鈴を縄文野焼きしよう！！」

9月14日「みんなで大きな和紙をつくろう」

14

対話型鑑賞プログラム 「アートでトーク」

- ・案内役と一緒に展示作品を見て、対話をするプログラム。
- ・作品を見て感じたことを言葉にすることで自分の考えを整理したり、自分とはちがう見方に触れたりして新しい作品鑑賞の世界を広げることができる。
- ・案内役は文化観光推進事業を活用して研修・体制作りを行った対話型鑑賞推進部のボランティアが務める。



- ・事前申込制(当日申込み可)で月に1~2回実施日を設けている。
- ・1回(1日)あたり5名1組を4組まで受け入れている。5歳以上の子どもを含めた家族での参加も可能な回も設け、幅広い年齢層を対象としている。
- ・事業の周知はチラシのほか、HPやSNS等で宣伝しており、県外からの参加者も少しずつ増えてきている。

15

シルバーのための鑑賞プログラム (認知症ケア鑑賞ワークショップ)

- ・シルバー世代の方を対象に、当館の展示室で本物の絵を鑑賞しながらお話しをする対話型鑑賞プログラム。
- ・案内役は、認知症のある方との鑑賞について特別な研修を受けた専門家であるアートコンダクターが務め、認知症のある方にも楽しんでいただける。
- ・絵をじっくり見ることで、描かれているものに気がついたり、自分の身の回りのものや、これまでの人生などと結びつけたりして会話が弾み、その体験は認知症の予防につながる事が期待できる。
- ・令和6年度は10月3日に第1回を実施
次回は2月28日に実施予定



16

「ミュージアム・シアター」



- ・毎月1回、芸術や開催中の展覧会に関する映画を講堂にて上映
- ・映像という媒体を通して芸術の魅力を伝える、特別展をより多角的に楽しむ、また映画という芸術形態自体を楽しむことが目的
- ・受け入れ人数は、令和5年7月より先着70名、現在は80名としている。

最近の例 8月「ランブル 音楽会を揺るがしたインディアンたち」
 9月「ファン・ゴッホと日本ー国立ゴッホ美術館ー」
 10月「天心」

今後の予定

11月30日(土)「見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界」
 12月21日(土)「ミステリアス・ピカソー天才の秘密」
 1月25日(土)「フェルナンド・ボテロ 豊満な人生」

R5・6年度 特別展概要

年度	R 5 （ 2 0 2 3 ） 年度				R 6 （ 2 0 2 4 ） 年度			
展覧会名	山梨県立美術館 コレクション REMIX	ミレーと 4人の現代作家たち	テルマエ展	アーツ・アンド・ クラフツと デザイン展	ベル・エポック ー美しき時代	山梨モダン 1912～1945	超絶技巧、 未来へ！	ドキュメント「アー トキャンプ白州」
会期	2023年4月22日(土) ～6月11日(日)	7月1日(土)～8月27日(日)	9月9日(土)～11月5日(日)	11月18日(土) ～2024年1月21日(日)	4月20日(土) ～6月16日(日)	9月14日(土) ～11月4日(月・振)	11月20日(土) ～2025年2月2日(日)	2月15日(土)～ 3月23日(日)
概要	山梨県立美術館は45年間をと おして、館の根幹となる コレクションの充実を図っ てきた。本展ではコレク ション内の優品を展示し、 会期中はコレクションを活 用した様々なイベントを開 催。当館の大黒柱である収 蔵作品と、新たな鑑賞方法 や活用方法を掛け合わせ る、いわばコレクションの 「リミックス」とおし て、美術館の今後の可能性 を探る大切な機会となるこ とを目指した。	ミレーは、急速に近代化が 進展する19世紀のフランス で、自然の循環に寄り添っ て生きる農民の営みを描き 続けた。人の営みが持続可 能性の観点から見直される 現代において、ミレーの作 品世界は、在りし日を思う ノスタルジーの対象にとど まらず、未来をポジティブ に思考するきっかけを与え る可能性を有するものでは ないか。本展では、ミレー の作品と、現代美術作家に よる作品を同時に展示し することで、コレクションの 可能性を探った。	人類史上に輝く繁栄を誇っ た古代ローマ。なかでも日 本人が深い関心をよせるも のの一つがテルマエ(公共浴 場)であり、ヤマザキマリ氏 による漫画『テルマエ・ロ マエ』はテルマエへの親近 感をより一層高めた。本展 では、古代ローマのテルマ エとともに、日本の浴場文 化も紹介した。主人公のル シウスが浴場をとおして日 本と古代ローマを往復した ように、それぞれの浴場文 化を体感することのできる 機会となった。	アーツ・アンド・クラフツ とは、19世紀のイギリスで 提唱された、生活と芸術の 統合を理念とするデザイン 運動で、ヨーロッパ全体へ 波及し、さまざまなジャン ルに影響を与えた。さらに アメリカでは機械生産なら では職人芸にも共通の理 念を見出し、新たな展開を 見せた。本展では 160点に 及ぶ作品を通じてアーツ・ アンド・クラフツ運動の多 様な展開を紹介した。	ベル・エポックとは、19世 紀末から第一次世界大戦開 戦頃までパリを中心に繁栄 した華やかな文化およびそ の時代を指す。当時、パリ には美術家、音楽家、文学 者、ダンサー、舞台関係 者、ファッションデザイ ナーなど、様々な分野の芸 術家が集まり、互いに交流 しながらそれぞれの芸術を 開花させ、今なおパリには 当時の面影を感じることが できる。本展ではその「美 しき時代」およびその少し 後の作品を取り上げ、文化 の諸相を重層的に紹介し た。	大正期、自由や民主主義を 求めるデモクラシーの空気 を背景に新しい芸術表現が 生まれた。山梨においても 多様な芸術活動が展開し、 芸術家たちは東京と山梨を 往来しながら作品を制作し た。本展では大正から戦後 までを「山梨モダン」と呼 び、二科会初の女性会友と なった埴原久和代、近代を 代表する水墨画家の近藤浩 一路、日本画院を創設した 望月春江、戦前からシュル レアリスムに取り組んだ米 倉壽仁らの作家の作品を紹介した。	明治工芸における「超絶技 巧」のDNAを受け継いだ現代 工芸と、「超絶技巧」が駆 使された明治工芸を改めて 紹介する展覧会。現代と明 治という隔たるふたつの時 代に制作された類まれな作 品を一堂に集めて展示し、 時を超えた「超絶技巧」の 世界に迫る。今注目の現代 作家17名による木彫、漆 工、金工、陶磁、ガラス、 ペーパーなどの作品と、明 治工芸の逸品を合わせて約 120点展示する。	1988 年、「野外芸術祭」が 未だ日本になかった時代、 山梨県の白州町で稀有なお 祭りが行われた。その後 2010年まで続いた「アート キャンプ白州（総称）」で は、舞踊、美術、建築、農 業、あらゆる表現に関わる 人々が国内外から集った。 その中心を担っていたダン サー田中泯は、農村地から 都市を逆照射するかのよう に芸術の真髄を模索し発信 した。 本展ではその歴史を物 語る記録映像や資料を展 示し、「アートキャンプ白 州」を山梨県で改めて紹 介する機会とする。
主な展示 作品								
	望月春江 《惜春》 1978年 山梨県立美術館蔵	和田英作 《落ち穂拾い（模写）》 1903年 東京藝術大学大学美術館蔵	《ヘタイラ(遊女)の いる饗宴》 1世紀 ナポリ国立考古学博物館	ジョージ・ワシントン・ ジャック 《サーヴィル肘掛 け椅子》1890年頃 マホガニー、布、ウール モリス商会	ジュール・シェレ 《ムーラ ン・ルージュ》1889年、デ イヴィッド・E. ワイズマン & ジャクリーヌ・E. マイケ ル蔵 ©Christopher Fay	米倉壽仁 《モニュメント》 1937年 当館蔵	福田亨 《吸水》2022年 ＊部分	Photo:Eiji Kitada
関連 イベント	・国際交流員とめぐるギャ ラリーツアー ・英語でギャラリー・ツ アー ・講演会 ・医療関係者を対象とした 対話型鑑賞 ・ワークショップ	・作家によるギャラリー・ トーク	・トークショー ・講演会 ・アウトドアサウナ@芸術 の森公園 ・親と子のアートレク チャー ・イタリアのメルカート (市場)	・講演会 ・ワークショップ ・アートでトーク ・担当学芸員によるギャラ リー・トーク ・ミュゼ・マルシェ2023	・講演会 ・ワークショップ ・担当学芸員によるギャラ リー・トーク	・講演会(予定) ・ワークショップ(予定) ・担当学芸員によるギャラ リー・トーク(予定)	・講演会(予定) ・出品作家によるワーク ショップ(予定) ・出品作家によるアーティ スト・トーク(予定)	なし

令和5年度 美術館協議会

山梨県立美術館・文学館・芸術の森公園指定管理者
SPS・桔梗屋・KBS共同事業体

◆目次

- ▶ 1. 指定管理令和5年度の運営方針
- ▶ 2. 来館者増に繋がる取り組み
- ▶ 3. 環境変化に対応したサービス向上
- ▶ 4. 安心・安全な施設の維持管理

1. 指定管理令和5年度の運営方針

指定管理令和5年度（1年間）の運営方針

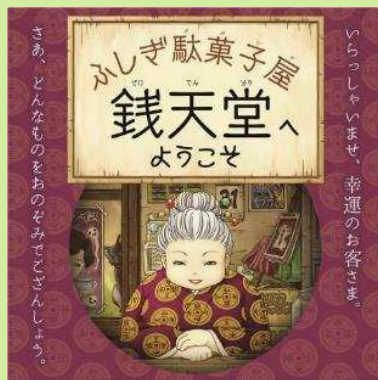
指定管理令和5年度（1年間）の運営方針

- 地域力を発揮し観光客を含む来館者増に繋がる
取り組みを強化
- 環境変化に対応し、来館者サービスの向上
- 安心・安全で効率的な施設運営

2. 来館者増に繋がる取り組み

●美術館・文学館 市町村との連携 営業活動

県内からの美術館・文学館への来館者増を目的に、県内市町村との連携を強化するため、9市1町を訪問。同時期に開催の美術館特別展「ミレーと4人の現代作家たち」と、文学館企画展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」の情報を各市町村発行の広報誌に掲載いただくよう依頼した。広報誌は全戸配布となり、掲載につなげることで高い広報効果が見込まれるため、両展覧会の集客の一助としたい。



展覧会をPR

- ・甲斐市役所
- ・南アルプス市役所
- ・笛吹市役所
- ・山梨市役所
- ・甲州市役所
- ・昭和町役場
- ・中央市役所
- ・富士川町役場
- ・韮崎市役所
- ・北杜市役所

訪問先市町村

2. 来館者増に繋がる取り組み

●県民の日イベント (11/20)

毎年多くの来場者でにぎわう「県民の日」。令和5年度は、公園の魅力を紹介する「公園ガイドツアー」と彫刻になりきる「スタチューパフォーマンス」のコラボレーションで、参加者にお楽しみいただいた。幅広い世代の方に好評で、お子様や家族連れから学生まで、多くの方にご参加いただいた。

多くの来場者を展示室に誘導する取り組みとして、美術館・文学館をまわるスタンプラリーも実施した。結果、両館とも1,000人を超える観覧者があり、秋の1日をお楽しみいただくことができた。



スタチューパフォーマンス



公園ガイドツアー

2. 来館者増に繋がる取り組み

●クリスマスワークショップ (12/9~12/24)

美術館に大型ツリーを設置してクリスマスの雰囲気演出した。美術館では、ぬりえのオーナメントと、特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」で展示中の、ウィリアム・モリスの「いちご泥棒」をモチーフとした布製オーナメント作成のワークショップを実施し、展覧会との一体感を演出した。12月17日には、アンサンブル・リベカのハンドベルの演奏によるクリスマスコンサートを開催した。

【参加人数】 ・ぬりえオーナメント(12/9~12/24) : 317名
・布製オーナメント(12/16・17・23・24) : 65名
・クリスマスコンサート(12/17) : 72名



布製オーナメント作り



ぬりえオーナメント



3. 環境変化に対応したサービス向上

● キャッシュレス決済の開始（5/1～）

5月1日から文学館の観覧チケット購入でキャッシュレス決済を開始した。今までクレジットカードや交通系ICの使用を希望されるお客様が多かったため、あらゆる支払い方法やブランドに対応できるようにしている。また、新型コロナウイルスもあり非接触を推奨する時流にも応える形となった。



3. 環境変化に対応したサービス向上

● 美術館・文学館 出入口の閉鎖終了

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受け、利用者の利便性向上のため、文学館では、カフェ・スペースにある公園側の出入口を。美術館でもレストランの公園側(ミュージアムコート側)の出入口を開放した。両館とも、出入口に消毒器を設置するなどの感染症対策は継続し、お客様の利便性の向上だけでなく、安全・安心な環境にも配慮した。



美術館レストランの公園側
(ミュージアムコート側)出入口



文学館カフェ・スペースの公園側出入口

3. 環境変化に対応したサービス向上

●ミュージアムアテンダント研修 (12/11)

休館日を利用して、避難訓練とサービススキル向上を目的とした研修を実施した。

避難訓練では、甲府西消防署に協力を仰ぎ、消防隊員に避難訓練の状況を確認いただき、緊急時の対応方法や、訓練の方法などのアドバイスをいただいた。また、実際に消防署に119番通報を行うなど、より実践的な訓練とした。このSPSやまなし独自の訓練を踏まえ、県職員も含めた全体訓練を令和6年2月に実施している。

サービススキル向上研修では、指定管理者として求められている業務と役割を再確認。看視の現場では、個人の行動が他のポジションや監視業務全体に影響が及ぶことを確認。一人一人の考動が重要であることを再認識した。



避難訓練の様子



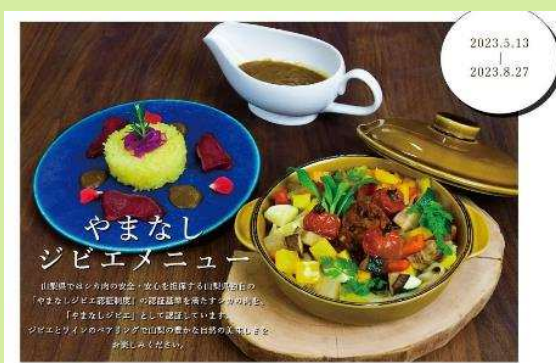
サービスワークの様子

3. 環境変化に対応したサービス向上

●レストラン やまなしジビエメニューの開始 (5/13~8/27)

美術館レストランにて、やまなしの文化であるジビエメニューの提供を開始。安全な山梨のシカ肉料理を気軽にお召上がりいただける機会となった。

県からの要望で誕生したオリジナルのジビエメニューは、県外の方にも山梨の食文化を知っていただくよい機会となり、ランチタイムの人気メニューの一つとなった。



4. 安心・安全な施設の維持管理

● 美術館・文学館・貸館の定員制限の緩和

美術館では、コロナ感染症対策で縮小していた、講堂・ワークショップ室・工房の定員制限を緩和。今後も館主催事業も含め、緩和後の定員に応じた利用者の増加が見込まれることから、必要な対策をしっかりと講じながら対応にあたった。

また文学館でも、5月からの再開に合わせて定員制限を緩和した。講堂や研修室・茶室の予約をいただいている申請者へ周知を行い、参加者数や必要な感染対策について見直しをお願いした。再開後は状況に即した対応をとるようにした。



4. 安心・安全な施設の維持管理

● 芸術の森公園 ふみの池外来魚駆除 (11/27～12/1)

文学館横のふみの池に外来魚がいるという公演利用者からのご意見があり、調査を行ったところ、本来は生息していないはずのブラックバスがいることがわかった。おそらく何者かが放したものと想像されるが、外来種の存在は生態系を壊す可能性が高いため、駆除を行った。ふみの池や水路も含めて、合計 17 匹の外来魚が捕獲された。今後も継続的に観察を行い、必要に応じて対策を行う。



令和 6 年度 上半期

美術館協議会

山梨県立美術館・文学館・芸術の森公園指定管理者
芸術の森みらいデザイン

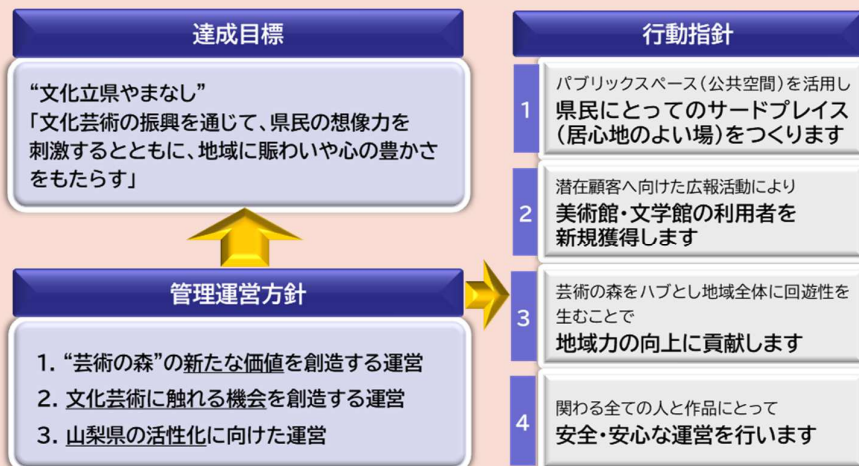
◆目次

- 1. 令和 6 年度からの指定管理事業
- 2. 広報活動 & 営業活動
- 3. サービス向上 研修実施とお客様の声への取り組み
- 4. 安全・安心な施設の維持管理

1. 令和6年度からの指定管理事業

令和6年度より、指定管理業務からレストランが分離し、
(株)SPSやまなしと、甲府ビルサービス(株)の2社による新たな共同事業体
「芸術の森みらいデザイン」として、運営を開始しました。

＜今期（R6～R9）の管理運営方針＞



2. 広報活動 & 営業活動

● ヴァンフォーレ甲府ホームゲーム広報(5/25)

県内外から多くの人が集まるヴァンフォーレ甲府のホームゲーム(対戦:横浜FC)で、スタジアムのエリア内にブースを設置し、来場者にチラシを配布し、特別展「ベル・エポック」のPRを行った。ブースやチラシを見て、展覧会の会期を確認に来られる方も多く、サッカーファンの中にも、美術館に関心を持つ方が一定数いることがわかった。

ヴァンフォーレのサポーターが多くを占める中、次に山梨に来た際にお越しいただけるよう、相手チームのサポーターにも声掛けを行った。インターバルの時間には場内のビジョンで施設のPR動画を上映し、美術館・文学館・芸術の森公園を一体としたPRを行った。県民だけでなく、県外の方にも効果的な広報ができる機会として、今後も定期的に出向いて情報発信をしていきたい。



ブースの様子



場内ビジョン動画

2. 広報活動 & 営業活動

●「山梨モダン」展、市町村への営業活動

「山梨モダン」展の営業活動として、県内の市町村が発行している広報誌に展覧会情報を掲載いただくよう、各市町村を訪問し、展覧会の魅力をアピールした。特に特別展「山梨モダン」では、学芸課の協力で展示される各市町村出身の作家の資料を作成し、県内27市町村すべてを訪問、掲載の協力を依頼することができた。

今後も県内市町村との連携を強化し、県民の方々へ情報をお届けし展覧会の集客に繋げるとともに、県民の来館機会創出に向けた営業活動を継続していく。



3. サービス向上 研修実施

●SPS：総合案内・受付看視スタッフの研修実施（4/22）

休館日を利用し、総合案内・受付看視スタッフの研修を実施。指定管理4期目のスタートにあたり、基本に戻り、業務内容の改めての確認とその背景にある「役割理解」をテーマとした研修内容とした。

具体的な業務内容を例に、その業務の目的を考えるグループワークを通し、期待されている役割を導き出した。合わせてサントリーグループの企業倫理綱領のディスカッションも行い、コンプライアンス等の法令遵守についての確認も行った。研修内容を今後の業務に活かし、来館者満足度の向上につなげていきたい。



講義資料

まとめとして

期待されている役割

考動

（指定管理者募集要項内）3.施設の運営方針

利用者の満足度を高め、期待に応えるため、常に利用者の声を聴取し、反映できるものは積極的に取り入れることとします。

また、危機管理体制の整備、防犯体制の整備など**利用者の安全確保や、防災対策、作品保存・展示環境の保全**にも十分な配慮をするとともに、環境対策にも取り組むものとします。

考動

業務

3. サービス向上 お客様の声への取り組み

●館内アンケート改善とお客様の声への取り組み

これまで、常設展と企画展・特設展と別々に2種類のアンケートがあったことで回答が分散し、回収率が1%ほどというかなり低い状態が続いていた。そのため、回収率を高め、収集したデータの信頼度を向上させることを目的に、美術館・文学館それぞれ1種類ずつのアンケート様式に変更した。

また、さらなる回収率の向上のため、作品リスト等に二次元コードを記載し、ウェブでいつでも回答できるようにすることで利用者の利便性を高め、広く声を集めるための工夫を行った。収集したお客様の声のうち、すぐの対応が可能なご意見については、迅速に対応するよう取り組んでいる。

■回収率向上のための施策

作品リストへの 二次元コード記載



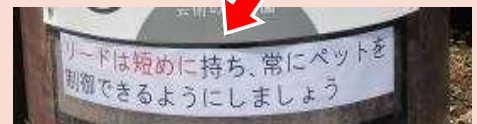
ウェブアンケート回答者に ARフォトフレームプレゼント



■アンケートのお声への対応

アンケートの声を受けた マナー啓発看板への案内文言の追加

アンケートのお声	対応
公園内で散歩をしていたお客様が、別のお客様が連れていた犬に噛まれてしまった。	公園内のマナー啓発看板を見直し。リードを短めに持ち、制御できる状態でペットを連れていただくよう、文言を追加した。



4. 安全・安心な施設の維持管理

●ピロティの外階段ブロック修繕／スズメバチの巣の撤去

美術館ピロティの外階段の一部に、経年劣化や気温の高い状態が続くことによるものと思われるブロックの隆起が確認された。そのため、カラーコーンを設置し注意喚起をしたうえで修繕を実施。現状回復したことを確認したが、ブロックが安定するまで引き続きコーンを設置して安全確保を行った。築45年を超え、経年劣化による施設や設備の不具合が多く確認されるが、小まめな点検で早めの対応を心がけ、今後も安全・安心に配慮した館運営を行っていく。

5月後半にはスズメバチの巣が発見され、6月に入りすぐ撤去した。その他、上半期だけで6件の報告があったが、いずれも巣が大きくなる前に無事撤去することができた。引き続き、スタッフ全員が安全、安心に対する意識を高く持ち、危険箇所を早期に発見し、速やかな対応を行うことで、安全・安心な施設の維持を目指す。

■ピロティの外階段ブロック修繕

修繕前



修繕後



■スズメバチの巣の撤去

撤去前のスズメバチの巣



4. 安全・安心な施設の維持管理

● 芸術の森公園 野外ステージ客席の破損（5 / 8）

5月8日、朝の巡回時に警備員が野外ステージ（こだま広場）の客席の破損を発見した。客席座面のレンガ約2.4mにわたり剥離し周囲に散乱していた。早急に周囲をコーンバーで封鎖し、故意による破損の可能性もあったため、警察へ通報した。警察による現場検証が行われ、今後巡回の強化を行うこととした。

その後、総務課と相談のうえで甲府警察署へ被害届を提出。修繕については現在発注手配を行い、準備を進めている。同様に劣化の進んだ個所についても点検を行い、安全管理に努めていく。



剥がれ落ちたレンガ



現場にコーンバーを設置し安全確保